

2021年2月1日

幼保連携型認定こども園 YMCA 保育園 2月えんだより

2月の聖句 『愛は、すべてを完成させるきずなです。』

<コロサイの信徒への手紙 第3章 14節>

今冬は、寒さ厳しい日々が続いており、春が待ち遠しい季節を過ごしています。子ども達が、毎日元気一杯に登園して、園舎に声が響きわたると、何だか寒さを忘れて暖かさを感じます。

さて、聖句には皆さんもお気づきかと思いますが、「愛」という言葉がたくさん出てきます。先日先生方と今月の聖句について意見を交換しました。「愛とか絆という句は、美しく、暖かい言葉だけれど、理解が難しいです。」「私たちの思いがあっても、押し付けてしまうと愛ではないし、何でも思い通りにすることも愛ではないし・・・」と、「愛」という言葉には、全てを包む優しさがありますが、捉える人によっては、「愛」は人を傷つけ、負担が重くのしかかるものになったりします。

私は日々の姿に愛を感じます。送迎の際に見る保護者の方々が、子ども達をぎゅっと抱きしめている様子やタッチしてバイバイする姿、子ども達が自分の思い通りにならず泣き、喧嘩しながらも話し合い、和解していく姿に、この聖句の「愛」というものではないかと思うのです。また絆という言葉は、阪神淡路や東日本大震災の時を思い返します。地震・津波等で人々の負った傷の大きさに、居ても立ってもいられずに、駆けつけた多くの人々の祈りと思いと行動自体が「絆」となって勇気づけられたことを覚えます。誰かのことを思い、祈り、寄り添い、何とか一緒に立ち上がろうとする姿です。本来は、切っても切れない間柄とか、家族のようなものを指すのですが、言い換えると「絆」は既にあるものではなく、生まれるもの、深めていくもの、造り上げていくものなのだと思います。

「愛」は見返りを求めないと言われます。ただ与えるだけで、そして、忘れるのです。忘れない行為は結果的に自己の満足であり、自分のために行っています。「施しをする時は、右の手のすることを左の手に知らせてはならない。」(マタイ 6:3)と言われます。しかし、「これだけ愛して、育てたのに」と、私は、我が子に対して思う時があります。まだまだ駄目ですね。「愛」を行ったのは実は私ではなく、命を与え、恵みを与えてくださる神様の「愛」が、子どものために働いてくれたと感謝しなくてははいけません。そのような「愛」に生きる者でありたいと願います。特別なことではなく、一つ一つの出来事を、決して疎かにすることなく、全ては神様に与えられた時として、大切に重ねていく先に、希望が広がるのでしょうか。

年主題聖句 「喜びと平和とであなたがたを満たす」

<ローマの信徒への手紙 15章 13節>

2月	乳児 (0,1,2歳児)	幼児 (3,4,5歳児)
月主題	できたよ	取り組む
月の願い	<ul style="list-style-type: none"> * 知っていることばを使って思いを伝えようとする * 友だちや保育者と一緒にいることを喜ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> * 寒さの中でも守られているのちを知る * お互いの違いを認めつつ、助け合うことの喜びを感じる * 友だちと伝え合ったり、話し合ったりしながら遊びを作り出す
讃美歌	わたしはしゆのこどもです / ありがとう こども改 51 / 幼児讃美歌II25	